農業人材の育成拠点に

県立農業大学校移転開校式

総事業費170億円を投入

県が農業生産基盤の充実と、農村環境の整備を図り農村社会づくりを進める拠点として整備を進めていた県立農業大学校がこのほど完成、10日に日置郡吹上町の現地で須賀龍郎知事をはじめ来賓、工事参加業者、同校新入生126人を含む約800人が出席して移転開校式を開き、出席者全員で開校を祝った。

午前9時30分、須賀龍郎知事をはじめ戸谷享九州農政局次長、川原秀男県議会副議長、横山宏志吹上町長、大久保誠金峰町長、川井田幸一県農業協同組合中央会長らのテープカットと同時に、同校の大島庄吉さん（畜産学部2年）と玉利真由美さん（農学部2年）が力強くくす玉のヒモをひくと、出席者から大きな拍手が沸き上がった。

テープカットで開校を祝う関係者＝吹上町の現地で

引き続き、場所を体育館に移して移転開校式に入り、初めに須賀知事が「農業を基幹産業とする本県において、同校が安心・安全な食の供給と、地域農業を担う人材確保・育成、また農業生産基盤や農村環境の整備を積極的に進める拠点となることを願うと共に、皆さんが本県の農業・農村を担う青年農業者として成長されることを祈念します」と式辞。

次いで、事業の経過報告、来賓挨拶の後、工事参加業者175社を代表して㈱日建設計、㈱森山工務店、㈱鶴留建設、大塚建設㈱、㈱つばめ機動建設それぞれの代表に感謝状が授与された。

学式では国歌斉唱の後、小川裕幸校長が「農業の高度な知識と技術を修得し、国際的な視野の醸成と柔軟な思考力と、幾多の苦難を乗り越えるたくましい体力と精神力を持った青年農業者を目指してほしい」と式辞を読み上げた。それを受けて新入生を代表し畜産学部の川元崇さんが「農大生としての誇りと責任を持ち、自立・実践・協調の校訓のもとに学業に励みます」と力強く宣誓をした。

同施設は、本県の基幹産業である農業の持続的展開と食の創造拠点としての生産性の向上、安定的発展を期するために、農業試験場や農業大学校の再編を図り、担い手育成を効率かつ総合的に推進することを目的に整備が進められた。平成5年に学識経験者ら約14人を中心とした農業開発センター整備委員会を設置。翌6年に整備基本構想、9年には基本計画が策定された。加えて従来の養成（5学部・1講習所）が、農学部・畜産学部の2学部に統合、また研究部門も新設され体制も新たに編成された。主な整備計画は、9～10年度に基本設計、11～12年度までに実施設計を実施、12年度から工事に着手し、この度の開校に至る。全体的に明日の農業を感じる夢のある景観を創出しながら、農業特性を考慮した施設とすることなどをコンセプトに整備された。用地費を含む総事業費は170億円。

主な施設は、校長、副校長、職員室などを設ける管理棟（RC造2階建2286・3㎡）をはじめ、病害虫調査、土壌実験、生物工学実験などを主とした教育棟（RC造2階建2410・8㎡）。このほか、230人を収容できる講堂（RC造712・6㎡）、約430席を有する学生食堂（RC造2建建1935・7㎡）、学生寮（A棟－9階建1968・5㎡、B棟－11階建2371・9㎡、C棟－13階建2727・7㎡）、野菜科、花き科、養豚科、酪農科を有する実習施設（7棟）など。

明日に駆ける

㈲南九州総合設計 代表取締役 益山 等さん

CADツールをHPで提供

同社は、道路・宅地造成・橋梁等の3次元CADによるパース図の作成や設計・測量調査・管理業務が主力だが、最近では土木設計技術者の設計・製図を支援するAutoCAD用ツールや各種計算プログラムの開発にも力を入れている。開発したフリー製品、シェア製品は同社HPで提供している。これが好評で全国の技術者間でちょっとしたブームを呼んでいる。

開発の発端は、CADは「計算機で支援する製図作業＝Drafting」とばかり理解していた。ところが「計算機で支援する設計作業＝Design」の意味もあることを知り、これがExcelとAutoCADを連動するソフトの開発へとつながった。

現在、HPで公開しているのはフリー製品6本、シェア製品6本。人気の製品は公開6カ月でダウンロード数1万回を超えた。

「技術者の負担を少しでも軽減できればと思い公開しました。今後は製品数を逐次増やし、CADの有効な使い方や、また使いやすい製品も増やし、多くのCADで使用できるようにDXF形式やSXF形式対応製品も公開して行きたい」と意欲的。全国の技術者との交流がネットで広がり、仕事の幅も広がった。地方技術者から全国への情報発信である。

国分市姫城2740－10。

県森林審議会

森林施策等を解説

県森林審議会（藤田晋輔会長）が10日、鹿児島市の鴨池ACアネックスで開かれ、当局から木造公共施設整備事業などの新規事業を盛り込んだ15年度県森林・林業振興施策の概要などについて説明がなされた。

審議会では、森林保全部会会長に佐々木幸久氏（県木材協同組合連合会副会長）を選出したほか、当局から15年度県森林・林業振興施策の体系・概要についての説明、法定外目的税の取り組み状況などが報告された。

主な新規事業概要内訳は次の通り（事業費、単位千円）。

▽沿岸伐倒駆除（16、790）＝桜島沿岸崖地における伐倒駆除作業の際、陸上部で伐倒処理不能なものは海上へ伐倒し、クレーン付台船で収容後、最寄の港へ搬送しチップの原木として有効活用

▽森林吸収源対策推進プラン策定（1、255）＝地球温暖化対策推進大綱に位置付けられている森林吸収源対策の目標値3・9％を確保するため、森林整備等に係る取り組みの基本方針を定めるとともに、管理不十分な森林がまとまっているエリアを対象に必要な森林整備等を行うための事業計画を策定

▽森林吸収源データ緊急整備（11、070）＝京都議定書の第1約束期間・2008～2012年度における森林の吸収量の算定の基礎となる森林資源データの管理するシステムを開発・導入し、本国の森林の炭素吸収量の算定・報告及び審査並びに今後の全国森林計画の樹立にあたっての効率的なデータを整備－①森林簿データ緊急整備の国家森林資源データベース構築

▽共生の森林づくり（23、564）＝森林の持つ保安機能を維持増進する保安林制度の普及・拡充を行い、合わせて保安林のモデル林としての整備を「環境の森林」で実施し、森林を守り、再生させることの重要性の理解を深め、森林の機能水準の維持を図る

▽乾燥材普及促進（957）＝県産乾燥材展示会の開催を通じ、県産乾燥材のPRを実施

▽ふるさとの木で学び舎づくり（18、450）＝小中学校等に学童用木製机・椅子を整備し、児童・生徒に地域の森林・林業・環境の重要性や県産材利用への理解や関心を深めるとともに、「木の良さ」の普及啓発を図る－学童用木製机・椅子1800セット／年

▽木造公共施設整備（36、567）＝市町村が地域材の利用を促進するうえで特に効果的な施設等において木造化・木質化を推進－①学校に関連した公共施設の整備②低コスト・耐火性のある材料を使った木造公共施設の整備

▽「かごしまの家づくり」推進（33、613）＝地域の中小工務店などの住宅生産者と木材業界関係者が一体となって、「かごしま材」を使用した木造住宅の建設促進に努める－①かごしま材使用の家づくりPRや森林から住宅生産までの見学会等の開催②「かごしま材の家づくり推進員」を養成するための講座開催

▽間伐実施による水土保全機能の高い森林整備技術の確立（546）＝間伐による水土保全機能向上効果を定量的に評価し、水土保全機能を高度に発揮できる森林整備技術を確立－①間伐林・放置林における森林環境調査②間伐による森林環境の変化に関する調査

森林・林業施策を審議する委員ら＝鹿児島市の鴨池ACアネックスで

＊貴社にとってISOは欠かせない経営ツールです。
＊ISO9001・14001をダブル認証取得した当社にお任せ下されば御安心頂けます。
ISO9001・14001
コンサルティング
－ご相談は随時受け付けています－
http://www.imabeppu.co.jp/iso.html
今別府産業株式会社
鹿児島市新栄町1丁目7番地 ☎(099)813-2662
ISOコンサルタント事業部（担当：川原清孝）